

## オータムキャンプ IN 淡路島

- 1 趣 旨：子供達の自己肯定感の向上や、生活習慣の改善等につながる多様な体験を提供し、自立する力を身に付けることを目指す。
- 2 主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 場 所：国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 757-39）
- 4 連携先：社会福祉法人 神戸市母子福祉たちばな会
- 5 日 程：令和7年10月11日(土)～10月12日(日)
- 6 対 象：小学1年生以上の親子 ※未就学児の参加については要相談。
- 7 参加人数：26名（内訳：子供12名、保護者10名、たちばな会役員4名）

### 8 プログラム内容

#### 10月11日(土) 【1日目】

##### 【開会式】11：35～11：55

はじめに、関係職員や法人ボランティアの自己紹介を行った。その後、「オータムキャンプ IN 淡路島」の趣旨について確認し、目標設定を行った。参加者は小学生低学年が半数だったが、「自分のことは自分でする」「子供達で協力して取り組む」「ひとつでもできることを増やす」ことを目標とした。また、施設の使い方のオリエンテーションを行った。



##### 【所内オリエンテーリング（大人）】13：00～14：30

昼食後は、子供と別れて所内オリエンテーリングの活動を体験した。グループごとに自己紹介をした後、地図を見ながら課題を解決する活動を通して、参加者同士が積極的にコミュニケーションをとることができた。猛暑の中の活動だったが、グループで協力したり、感想を交流したりすることで、参加者同士が打ち解けることができた。

### 【藍染め（大人）】 14:40～16:00

大人は当施設の活動プログラムの一つである藍染めを行った。参加者は染め上がった模様をイメージしながら夢中で取り組んでいた。「初めての体験で楽しかった」「形に残る思い出が作れて嬉しい」といった声が聞かれ、完成したお互いの作品を見せ合いながら感想を交流するなど自然と会話が弾む姿を見ることができた。



### 【レクリエーション（子供）】 13:00～13:45

参加者は初対面であるため、仲間づくりの一環としてレクリエーションを行った。はじめに、自己紹介を取り入れたレクリエーションを行ったあと、体を動かしながらコミュニケーションがとれる内容で行った。はじめは緊張している様子も見られたが、最後は、子供たちの希望により鬼ごっこを行い、全員が仲を深めることができた。



### 【館内オリエンテーリング（子供）】 13:45～14:45

続いて、どのような施設なのかを知るために館内オリエンテーリングに取り組んだ。2つのグループに分かれて、コミュニケーションを取りながら課題に取り組んでいく様子が見られた。



### 【野外炊飯（子供）】 15:00～18:00

「子供達だけで、全員分の夕食を作る」ことを目標に、2つのグループに分かれてカレー作りを行っ

た。普段はなかなか調理をする機会のない子供も多くいたが、職員やボランティアのサポートのもと、そしてグループの仲間と協力しながらカレー作りを行った。また、昨年に実施した際よりも食材の量を増やしていたが、多くの参加者がおかわりをして、完食できるほど美味しいカレーを作り上げることができた。

子供達からは、「カレーをつくるのがこんなに大変だと知らなかった」や「野外炊飯で、家に住めなくなったら『こういうふうになればいいんだ。』と分かった」といった声が聞かれた。



#### 【保護者交流会（大人）】 19:30～20:30

子供達が天体観察の講義を受けている間、保護者同士で話し合う時間をとった。「子育ての悩みなど、同じ立場の人と話せてよかった」や「普段交流がなかなかないので、有益な話が聞くことができ、気持ちも楽になった」等の声があり、有意義な時間だったと伺える。

#### 【天体観察（子供）】 19:30～20:30

屋外は曇っていたため、屋内で天体に関する話について講師を招いて拝聴した。子供達にとって少し難しい話もあったが、普段なかなか聞くことのできない天体について学びを深めることができた。



#### 10月12日（日）【2日目】

#### 【ストーンペインティング】 9:00～10:30

吹上浜で石拾いをした後、研修室でストーンペインティングを行った。参加者は大小さまざまな大きさや形の石を探す姿が見られた。ペイントで時間をかける参加者もいれば、装飾をして個性的な作品を作る参加





者など、様々だった。お互いの作品を見せ合う姿も見られ、参加者同士の仲が深まっていることが伺えた。

#### 【アドベンチャーラリー】 11:50～12:45

雨天だったため、研修室で施設の活動プログラムの一つであるアドベンチャーラリーを取り入れた活動を行った。大人・子供も一緒になり、グループで協力して課題を解決する活動を行った。パイプラインでは、グループで協力して、大人も子供も大きな声出し、盛り上がる様子が見られた。活動後は、「楽しかった」や「アドベンチャーラリーのような皆で協力できるのが良かった」といった声が聞かれた。



#### 【ウミホテル観察】 12:45～13:10

雨天により、アドベンチャーラリーを短縮したため、急遽ウミホテル観察のプログラムを取り入れた。ウミホテル観察は淡路の特色あるプログラムの一つであり、まずは「ウミホテルとは何なのか」について動画を用いて学習した。その後、乾燥ウミホテルとルーペを用いて、実物を見てみるとともに、発光実験を行うなどした。参加者からは「はじめてウミホテルを見ることができて良かった」や「とても綺麗だった」などの声が聞かれた。



#### 【道の駅福良散策・うずしおクルーズ】 13:50～16:00

福良港より出港している「うずしおクルーズ」に乗船した。2日間の日程の中で一番楽しみにしていた参加者が多かった。天候も回復し、多くの渦潮を見ることができ、参加者は満足していた。乗船中はいくつかの家族が集まって、船からの景色や渦潮を一緒に見ている姿が見られ、家族間の仲が深まっていることが



伺えた。また、うずしおクルーズ乗船前には各々で道の駅を散策し、淡路まで来た思い出にお土産を買ったりしていた。

#### 【閉会式】 16:20～16:45

福良地区公民館で閉会式を行った。「友達をつくることができた」や「子供と普段できない体験をできたのも良かったが、子供と離れる時間を取ることができて良かった」などの声が聞かれ、笑顔で帰る参加者が多くおり、参加者にとって満足度の高い2日間であったことが伺えた。



### 9 成果と課題

本年度も親子別れてのプログラムを実施したことで、子ども達が親と離れて、初めての挑戦や体験をすることができた点は、本事業の趣旨である「自己肯定感の向上」に繋がったと考える。また、保護者にとっても子どもと離れる時間を確保できたことや他の保護者との繋がりを得られるといった点で効果があったと考えている。実際に、参加した保護者から「普段、なかなか旅行に行けない」、「子どもと離れた時間を取ることができて良かった」と聞き、仕事の忙しさもあるうえ、家に帰ってもずっと子どもを一人で見なければならぬという点で、保護者にとってリフレッシュの機会になっていると感じるとともに、保護者と子どもで別れた活動を行ったメリットがあったと感じた。また、子ども達の活動では、子ども達が主体的に動き、グループの一員として協力する姿を見ることができた。そのような姿は保護者にとっても新たな一面となったと考えている。

また、本事業をもって神戸市母子福祉たちばな会との連携は終了となるが、次年度以降の体験活動の継続のために「子どもゆめ基金」へ移行して活動ができるよう支援を進めており、体験活動が分断してしまわないように今後もフォローを続けていきたいと考えている。

今回の課題としては、小さな子どもの参加者も多くいたため、入浴時間(21時～)や就寝時間(22時)については検討する余地があると考えている。特に、入浴について、大浴場・中浴場を使用せず、個室の浴室(小浴室)を利用希望の家族が6家族ほどいたが、本事業中は、他団体の利用も多くあり、オータムキャンプでの小浴室利用は1時間しかとれないため、上記のような家族数の希望があると入浴時間が短くなってしまうという課題があった。